

日本発生生物学会第46回大会 市民講座

生物好きをもっと増やしたい—生き物ワールドへの水先案内—

日時：2013年6月1日（土） 13:00～16:00

場所：島根大学松江キャンパス

（第一部）大学ホール

（第二部）大学会館3階

世話人：松崎 貴（島根大学生物資源科学部）

参加費：無料

内容：

第一部 生物の魅力を知ってもらうには（13:05～14:25）

1. 国際生物学オリンピックと高校生物教育
ナビゲーター：齋藤 淳一 先生（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
2. おもしろくて役に立つ生物学～進化、発生、医療と地球の未来～
ナビゲーター：栃内 新 先生（北海道大学大学院理学研究院）
3. 理科好き、生物好きを増やそう！～サヒメルからのチャレンジ～
ナビゲーター：龍 善暢 先生（島根県立三瓶自然館サヒメル）
4. 誰でも簡単に使える植物図鑑は作れるか？
ナビゲーター：秋廣 高志 先生（島根大学生物資源科学部）

パネルディスカッション（14:25～15:00）

パネラー：齋藤 淳一・栃内 新・龍 善暢・秋廣 高志・児玉 有紀（島根大学生物資源科学部）・岩 義博（島根県立浜田高等学校）

司会：松崎 貴

*クリッカー（双方向話型教育支援システム）を使って聴衆の皆様の意見をリアルタイムで反映しながら、生物教育の課題や展望を論議する予定です

第二部 体験：生き物ワールドへの“ここからドア”（15:00～16:00）

- 生物の発生現象って不思議だ
- マイクロ王で遊んでみよう
- DVDでみる生命現象
- iPisで身近な植物を同定してみよう？

第一部：講演要旨

国際生物学オリンピックと高校生物教育 齋藤 淳一（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

国際生物学オリンピックは3つの大目標を掲げています。

- ・生物学の問題の創造的解決を通じた、生物学研究への活発な興味を鼓舞
- ・生物学に興味を持つ学生間での定期的国際交流の推進
- ・生物学教育に関するアイデアと教材の交換を推進

実験課題では、日本の高校教育では通常、使用されない分光光度計や電気泳動法なども含めたスキルが要求されます。また、統計学的処理を含めたデータの処理能力も要求されます。今回は、国際生物学オリンピックの紹介とともに、世界の中の日本の生物教育について考えたいと思います。

おもしろくて役に立つ生物学～進化、発生、医療と地球の未来 栃内 新（北海道大学大学院理学研究院）

新しい学習指導要領の下で高校の理科教育が大きく変わっています。生物学の変化は大きく、1年生が学ぶ生物からは「生殖と発生」や「メンデルの法則」がなくなり、「遺伝子」、「免疫」や「生態系」が大きく扱われるようになっていきます。教科書の変化はさておき、ヒトという動物である「自分とはなにか」を知るという意味において、生物学ほど多くの生徒の興味をひきつけやすく、また日々生きるために直接役に立つ学問はありません。ここを押さえると、生物の授業が変わります。

理科好き、生物好きを増やそう！～サヒメルからのチャレンジ～ 龍 善暢（島根県立三瓶自然館サヒメル）

自然科学系の博物館、三瓶自然館サヒメル。ここでは来館者に本物に触れたときの発見と感動を伝えています。そこから生まれる疑問や探求心こそが理科を好きになる原動力と信じて。さらに、理科好きの子ども達を増やすために、先生方にも理科好きになってもらいたい。そんな願いを込めて先生方とサヒメルをつなぐ「サヒメル理科ネット」を作りました。博物館としてどんなお手伝いができるのか。サヒメルからのチャレンジです。

誰でも簡単に使える植物図鑑は作れるか？ 秋廣 高志（島根大学生物資源科学部）

身の回りにどんな生き物が生育しているのか知らない子供（大人も）が増えています。私の研究室では、専門的な知識がなくても植物の名前を調べることが出来る“種の同定支援システム（名称は iPis : plant identification system）”の構築を行なっています。多くの人がこのシステムを使い「植物の名前がわかる」喜びを知って頂きたいと思っています。開発のエピソード、そして今後の展望についてご説明したいと思います。参考 URL は <http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/> です。

日本発生生物学会第 46 回大会

第 7 回男女共同参画ランチョンワークショップ

46th annual meeting for the JSDB with the APDBN, 7th Gender equality workshop

5 月 31 日 (金) 12:10-13:10 会場 Room2 (くにびきメッセ)

「生物学を企業で活かす、広がる可能性」

話題提供:

小島 清嗣 (オリンパス株式会社)

「人生に無駄はない、とトルストイは言った」

豊田 礼子 (株式会社コングレ)

「アカデミアからビジネスへ—研究者としてのキャリアを活かして」

司会: 倉永英里奈 (理研 CDB)・小柴-竹内 和子 (東京大学・分生研)

生物分野を学ぶ学生やポスドクにとって、将来アカデミアで自分の学んできた事を活かす姿は容易に想像できても、企業での姿はなかなか想像に難しいものがあると考えられます。多くの学生が目を向けるのは、生物学と直結しそうな製薬や食品の研究開発部門を持つ企業であり、そのような企業は得てして競争率が非常に高く、学生を悩ます原因となっています。しかし、生物学、特に我々が学ぶ発生生物学を活かす方法というのは意外にあるのではないのでしょうか? 本ワークショップでは、生物学を学び、ドクターコースを終えた後、他の企業も経てオリンパスに就職され顕微鏡開発に携わってこられた小島清嗣氏、また、ポスドク後コンベンション会社コングレに就職され、学会に参加する側から学会運営をサポートする側に回られた豊田礼子氏を講師としてお招きし、ご自身の経験をもとに、ご自身の学んでこられた事がどのように企業での仕事に反映されているか、お話いただく予定です。将来について悩んでいる学生、ポスドク、また、その指導教官の方々にご参加いただき、自分の学んできた (学んでいる) ことに対して自信を持ち、前向きにキャリアパスについて考えられるようになればと思っております。ランチ付き、日本語ですので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

主催: 日本発生生物学会男女共同参画 WG

後援: 男女共同参画学協会連絡会

Luncheon Seminar ランチョンセミナー

May 31 (Fri) 12:10 - 13:10 Room 1

Getting Published Well: Strategies for Success

Speaker: Dr. Gary C. Schoenwolf (University of Utah School of Medicine)

Publication provides an opportunity to showcase your science to the world. Where you publish (*i.e.*, which journal) affects how your work is viewed by the scientific community, and can affect both the reading and citation of your work and your reputation as a scientist, which in turn affects your career development. Hence, it is important that your work receives the recognition it deserves by being published in the best journal that your science allows. In theory, several largely objective factors determine where a paper is published: its scientific quality, the advance the paper makes in its field, and its applicability to the broader community of science. However, how your paper is perceived by the editors and reviewers (and subsequently by its readers) is equally important. The gold standard for what constitutes a high impact paper is based largely on criteria developed in the Western world. Therefore, scientists trained elsewhere can be at a significant disadvantage. The lecture will focus on strategies for creating the best perception of your paper, increasing the likelihood that it will be published well.